


チューリップ



R5、12、7
発行責任者 横山 真樹

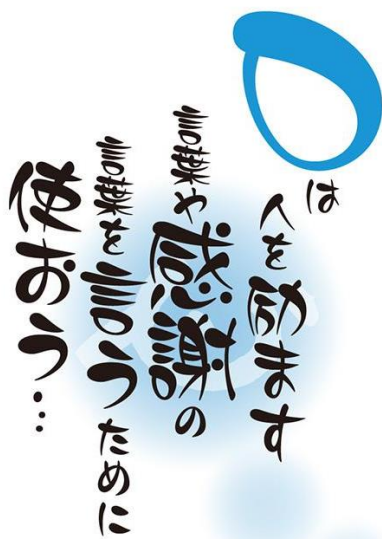
～言葉の力！！～

「頑張れ～」 「ファイト～」 「もう少しだよ～」

12月1日に行われた校内駅伝大会で聞こえてきた皆さんの言葉です。一生懸命走っている生徒、クラス関係なく応援している生徒、全校生徒がまとまった素敵な行事になりました。走り終わった生徒と話をしていたら「声援がたくさん聞こえてきて気持ち良く走ることができました」「みんなからの声援はうれしいですね」などという言葉聞くことができました。皆さんの口から発せられる言葉は、常に前向きであり、人を励ましたり、元気づけたり、勇気づけたりするものであって欲しいと願っています。残念ながら様々な事情で走れなかった生徒もいましたが、走ることができた皆さんは、言葉の力を感じることができたのではないのでしょうか。この日は、本当に素敵な言葉で会場が包まれていましたが、国分寺中学校でも、逆に嫌な言葉を言われてしまい傷ついたことのある経験をもつ生徒もいます。

「死ねっ」「うざい」「きもっ」こんなニュアンスの言葉をついつい発していませんか？簡単に言葉にしている人を目にしますが、自分が思っている以上に傷つく人がいることを知ってください。人が亡くなったら悲しいじゃないですか。ちょっと考え方が違っても、うざいわけではない、気持ち悪いわけではないじゃないですか。絶対に使ってはいけない言葉です。また、人の嫌がる言葉、悪口、陰口、これらも皆さんの口から発すべき言葉ではありません。言葉には本当に大きな力があります。学校全体が一つにまとまったあの時間を大切にもう一度言葉の力を考えてほしいと思います。言葉はキャッチボールだと思っています。だから、自分が言った嫌な言葉はそのまま返ってきますし、嬉しい言葉もまた同じだと思うのです。「死ね」と言って、ありがとうとは返ってきません。ぜひ温かい言葉を使っていきましょう。

4月の全校集会でこんな言葉を紹介しました。腰塚勇人さんが行っている「命の授業」という取り組みの中の一部です。まさに皆さんは、駅伝大会の時に人を励ますために一生懸命になりました。それが大切なことです。ぜひ、皆さんの口から発せられる言葉が人を励ます言葉だったり、感謝の言葉だったり、温かい言葉で溢れ、温かい学校の雰囲気になることを願っています。



腰塚勇人氏「命の授業」より

※チューリップの花言葉「思いやり」